

# 「なおしタル G」

「NAOSHITARU G」

「なおしタル G」は、使用時に所定量の水を加え、練り混ぜることにより使用できる、プレミックスタイプの空隙充填用グラウト材です。高いチクソトロピー性により、従来の無収縮グラウトでは出来なかった上下に広がる空洞等にも施工不良(空隙部分ができる)を起こすことなく、高い充填性能を発揮します。高い強度性能、高い無収縮性能を有し、トンネル、橋梁等、土木構造物の空隙箇所への圧入工法による補修工事、補強工事に適した材料です。

## 特 長

1. 高いチクソトロピー性を有しているため、傾きのある断面、上下に広がる空洞でも自然に流れることなく、圧力をかけることで充填することができます。
2. 高い強度性能を有しており、幅広い構造物の補修に対応することができます。
3. 最少クリアランス2mm まで充填することができます。

## 用 途

- トンネル背面空隙部の充填による補修
- 地下構造物の充填補修、土木構造物の間隙への充填補修
- トンネル耐震補強工事での鋼製セグメント裏側の隙間充填
- 建築構造物の空隙不良箇所への充填補修

## 仕 様

1袋あたりの練上り量			1㎡あたりの使用量	
なおしタル G (kg)	水 (kg) 注1	練上り量 (ℓ)	なおしタル G (kg)	水 (kg)
25	5.0	約14	1775kg (25kg × 71袋)	356

注1 練り混ぜ水は、環境温度、施工方法により変動します、1袋あたり4.6 ~ 6.0kg (標準水量 : 5.0kg) の範囲を目安にご使用ください。

## 施工方法

1. モルタルポンプは、連続して施工できる容量のホップを備えたスクイズ式ポンプを使用してください。
2. 施工断面には注入口を設け、圧入しながら空気が抜ける構造(空気抜き口を作る)にしてください。
3. 「なおしタル G」は、高いチクソトロピー性により、通常は無収縮グラウトのように自然に流れることはありません。ポンプ等の圧力がかかっている場合だけ流れます。型枠を組む場合は精度良く、また補修断面に大きな欠損穴等がある場合は、あらかじめ塞いでおく必要があります。
4. 「なおしタル G」の練混ぜは、ハンドミキサまたはパン型ミキサを用い、練混ぜ時間120~180秒を目安に練混ぜたのち、モルタルポンプまたは低圧の注入器具にて施工してください。
5. 施工後は、出来る限りビニールシート等を用い、適切な養生を行ってください。施工面が空気にさらされる条件の場合、表面乾燥ひび割れが入る可能性があります。

## 物性試験例

水 量 (kg)	練上り温度 (°C)	フロー値 (mm)	圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )					静弾性係数 (KN/mm <sup>2</sup> )	長さ変化
			標準養生		気乾養生 (20°C、湿度 60%)				
			7日	28日	3日	7日	28日	28日	28日
5.0	20.0	198	36.8	55.6	29.3	37.8	57.3	25.8	-282 × 10 <sup>-6</sup>

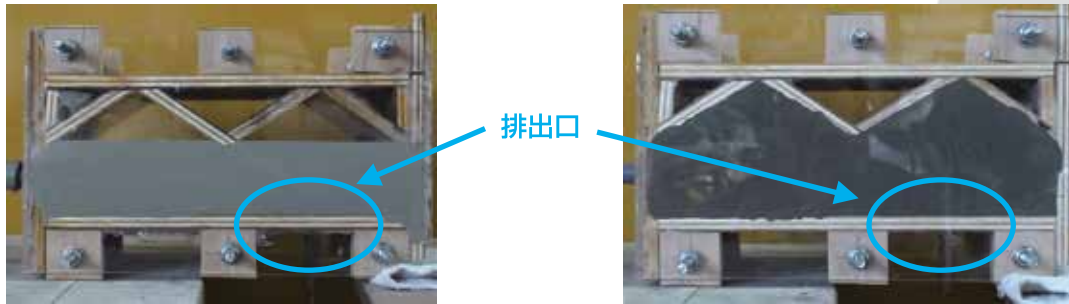
フロー値 : JIS R 5201 (セメントの物理試験方法) 11. フロー試験 15 回落下運動後のフロー値

圧縮試験 : JIS A 1108 (コンクリートの圧縮強度試験方法)

静弾性係数 : JIS A 1149 (コンクリートの静弾性試験方法)

長さ変化 : JIS A 1129 (モルタルおよびコンクリートの長さ変化試験方法、供試体作成後、翌日基長にて測定)

## チクソトロピー性評価充填試験



従来の無収縮グラウト材

なおしタル G

「なおしタル G」は、排出口から流れ出すことなく、圧入できる

## 包装形態

25kg 入 防湿袋

### 使用上の注意事項

1. 使用前に、必ず、安全データシートを読み、取扱う。
2. 練混ぜ水量は、環境温度、施工部位、施工方法により決定する。  
また、市販の無収縮グラウト材に比べて、硬く見えるので注意する。
3. 本製品を使用するときは、飲食・喫煙をしないこと。
4. 取扱い後は、手を良く洗うこと。
5. 保護手袋・保護メガネ・防塵マスクを着用すること。
6. 飲み込んだ場合は、すぐに口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
7. 眼に入った場合は、水道水で 15 分以上洗うこと。コンタクトレンズを着用して、容易に外せる場合は外す。
8. 皮膚に付着した場合、皮膚刺激が生じた場合は、水道水で洗浄すること。
9. 発疹が生じた場合は、医師の診察、手当を受けること。
10. 吸入した場合、呼吸が困難な場合には、新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師の診察を受けること。
11. 保管は、直射日光を避け、湿気のない室内に保管すること。
12. 内容物、容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

## なおしタル工法研究会



株式会社ニューテック

〒174-0056 東京都板橋区志村1-2-9

TEL 03-5918-9688 FAX 03-5918-9687

<http://www.kknewtech.co.jp/> E-mail [info@kknewtech.co.jp](mailto:info@kknewtech.co.jp)